下稿

第一冊

（日本の政治史 ほか）

特別
ヌ6
9291
6

早稻田大學圖書館

下稿 壹冊

X6
9291
6

早稲田大學圖書館

八 水田印行

<97-216>

ソ連ノ共産党操縦政策

一、米ソ對立

二、ソノ現在ノ重点ーヨウロッパ

フオイエルバッハの（謂ふ）思惟と有の統一、マルクスの謂ふ社会的人間の実現、これらの高い目標は人間意志の緊張と現実的活動ありてのみ可能である。

Feuerbach

日本の政治史

一、明治維新

一、原因及ビ経緯

二、指導力

三、革命ノ性格

四、封建的ナモノノ残存

二、日本資本主義

一、資本蓄積

二、資本家及ビ労働者

三、戦争政策・大陸発展

四、資本主義ト農村

五、財閥と中小工業

六、農業部門ト工業部門

七、各部門ノ不均衡

八、ソノ進歩的方面ト退歩的方面

三、政治過程

一、反戦ノ二勢力

二、明治憲法

三、明治時代ノ政党

四、日清戦争及日露戦争

五、労働運動及農民運動
六、大正昭和時代ノ学問芸術
七、第一次世界戦争ト日本
八、第二次世界戦争ト日本

四、戦後ノ民主革命

一、民主主義ノ方式及原則
(a) 政治ノ[illegible]
(b) 経済ノ機構・資本主義、
(c) 文化
(d) 社会—労組

二、形式主義的諸制度
三、将来ノ任務（近代化）
(1) 民主主義ノ実践化—(a) 生活ノ上 (b) 議会 地方 政治
(2) 経済ノ再建
(3) 国家的統一
(4) 協同組合的経営
(5) アメリカ文化
(6) 近世封建性排除
(7) 労働組合
(8) 農村振興

(9) 経済
(10) 政治勢力 — セレキノ自由
自由党 — 改進党 — 立憲政友会 —
(11) 経済構造ノ近代化
(12) 西欧平和 — 以前要ニ見ルアラ
同友平和国
(13) インフレ（需要超過）（安定通貨）
(14) 財政
(15)

四、アメリカニ望ムモノ
(1) 機械的民主化政策否
(2) 生産財 — ~~[illegible]~~
(3) 貿易回復其他
(4) 追放問題
(5) 日本人アメリカ移民ヲ許ス
(6) 近代化 — 工業化
(7) 外国貿易 — 民間貿易
(8) 財政 — 占領費 1/3
(9) 電力

(10) 労働階級ヲ甘カス大

(11) 共産党ヲ除廃セヨ

(12) 警察ヲ守リ立テヨ

(13) 政権争内部ノスキャンダル

(14) 露国ノ兇キ性ヲ強張スル大

(15) 農村民主化ニ力ヲ注ゲ

(16) 経済再建ヲ急ゲ — 学者動員

(17) 企業合理化ヲヤレ — 形式的[illegible]

(18) 親ソ団体

(19) シベリア帰還者

(20) インフレーション
政府政策と政党の立場

官僚論

北沢新次郎氏が次のような話をした。

「農民は安定の[illegible]がない。農民は官僚の統制で苦んでいる。一月には納税で手持資金がゲッソリ減った。北沢教授は農村地帯では農民も農業会も全部の金を[illegible]ない。官僚がそんなことをやるから[illegible]独占するのは絶対反対である」と云っている。

戦後日本では二年半、民主革命の嵐が吹きまくって財閥も官僚も少々傾いた。英米流の議会制度や個人自由主義など立派な民主主義の衣裳を着せてくれたが、まだ封建的なものは中々根深い。なかんづく官僚除党がその最たるものだ。都市地方ともに官公署の役場自治体の内の指揮体系のこしても制度上の改革ははじまっているが、官僚という幽霊連は、其の人民の集団はビクともしておらぬ。

国家があれば役所がある。役所があれば官僚がどうしてもできる。しかし役所と官僚とは同一物でないのであるところが官僚は役所と官僚とを同一物だと人民に思はせようとする。自分でもそんな気になっている。昔は官僚は自分たちが人民の主人公くらいの気がしていた。今は人民の指導者だくらいの感じでいる。国家機構を運営するほど政府官僚も大規模となる。この大規模な

（民主主義の[illegible]）官僚社会と[illegible]

検挙の観方よりも学生運動に乗り出した。安倍は自分から逃避して危険をつねにもつ、実際にからして

好き離している。安倍は思索創造のなかに浦く一つの皮膚病だ。ローマ以来の大思索の一つの系譜

或る家の内部が大きくても封建性が強ければ強いほど安倍の人間性疎外も強い。旧日本の小説家はトルストイのようにアー

でも決して安倍を好個の材料としてきた。[illegible]役人を主人公にしたり、道化役にしたりして痛烈な皮肉を加へて

いるか、それは日本人の自己批判でもあった。日本の小説家はみんな適切な材料があるのに、安倍の習癖や[illegible]

〇しかし安倍は自分で自縄自縛になって[illegible]存在でない。政治は権力を握る集団から左右される。権力を

〇思想[illegible]

人間蔑視を描いたことがない。自分で泥沼に満足してるからだ。

握るのは一つの階級の代表者だ。過去の日本では財閥や軍閥が政治を動かしていた。安倍はそれらの道具だった。

た。日本の安倍の深刻な保守性は己に財閥や軍閥の教育をうけたり、それからコキ使はれたり、[illegible]

飼はれた伝統のひきつぎである。そして軍閥財閥の没落と共に、安倍の統制力や[illegible]

を中から失ったので、その統制力をもって力が安倍自身のものでなく、虎ー軍閥財閥ーの威を借る

狐の化身であったことが分り、幻滅を感じ、ふてくされて自暴するというわけである。

〇新しい[illegible]

〇この[illegible]集団を消失してあきらめるだけではいけない。このガンを切開せねば日本の民主化はありえない。

(1) 保守的な[illegible]化せ。近代官僚の安倍らしくすれ。書類マニヤをやめよ。[illegible]ほんとうの[illegible]にされ。[illegible]人間化。

(2) 形式主義をやれ。首切りやめさえず。

(3) 自ら[illegible]をやれ。[illegible]をやめよ。[illegible]

(4) 官僚中心と[illegible]の[illegible]。[illegible]

(5) 人民[illegible]。人民[illegible]。

(6) 金庫[illegible]運動へ。

(7) 安倍が[illegible]。[illegible]政治家や民間の[illegible]安倍が生じるのだ。

5

45
9
405

405
25
2025
810
10125
15
50625
10125
151875

10125
15188
96042

記念[illegible] —— 10,000
器代 —— 20,000
山[illegible] —— 20,000
50,000

御[illegible]2日 1000
早大 1000
[illegible] 300
[illegible](手術) 400

(8) 鋼鉄ノ殻ヲ破レ
(9) 専門的技術家化。ナアルモノトシテノ地位ノ保障。
(10) 綜合的行政（各省ノ事ノ統一）
(11) 下級職員ノ昇進制
(12) 責任制ノ個人的責任ノ
(13) 行政査察
(14) 官吏ノ再錬磨ノ再訓練
(15) 官吏ハ法律規則ノ人形化スル危ムイニシアチーヴヲ発揮セヨ。民主的。行政技術ヘノ尊重。
(15) 専門技術者トシテノ権威ノ自信。ソレヘノ信頼。
(16) 技術ノ時代ノ技術ヲ尊重セヨ。
○ 役人ノ官僚的生活。最モノ伝統ニ従テ国民全体ノソレノ如ク作動スル。
(17) 国民ノ立法部、行政部ノ共通的法理。
○ 安全保障——新日本ノ方ヲ指導セネバ
○ 中立ノ階層

我が民主革命の何よりの課題

敗戦後日本の世界の問題の[illegible]（のなかの問題をもつ、その）[illegible]は三つに要約しうる。第[illegible]政治に於ける民主化の要求、第二は民主革命の進行である。第三のものが成功すれば第一第二のものはいはば自動的に勝利に帰する。

但し二年半の間にアメリカ[illegible]民主革命が進行した。[illegible]財閥など[illegible]の統制下にある政治権力[illegible]一挙に瓦解して、そのあとに[illegible]の議会主義が生れた。[illegible]日本の経済[illegible]が[illegible]となる。

農地改革と農業[illegible]は[illegible]中小工業といふ[illegible]（つまり十九世紀[illegible]の[illegible]）をも[illegible]明かにした。[illegible]地主は土地所有が瓦解して[illegible]は土地の世襲[illegible]に[illegible]の[illegible]を[illegible]とすることに[illegible]。[illegible]民主[illegible]の[illegible]が[illegible]した。[illegible]小作[illegible]となった。[illegible]民主革命[illegible]となった。[illegible]等々。

[illegible]民主革命は世界[illegible]の一環としての[illegible]である。世界においては封建[illegible]が深い。[illegible]の[illegible]に[illegible]は[illegible]も世界に於て封建的[illegible]を[illegible]する。日本の封建[illegible]は[illegible]世界の[illegible]

[illegible]のために[illegible]できなかった。日本の民主革命は[illegible]の[illegible]でもあり[illegible]の改革が主たるものであれ、しかし[illegible]これは日本民族の[illegible]（日本[illegible]の[illegible]を解決する[illegible]ではあるが）[illegible]をも[illegible]する[illegible]。[illegible]二[illegible]、[illegible]の改革は[illegible]と[illegible]。[illegible]から[illegible]を[illegible]

[illegible]ことに努力せねば[illegible]もちろん[illegible]の[illegible]を実践とは[illegible]ものではないか。一応、民主革命は[illegible]

ギブンないことして…を新たな民主革命の段階に於ける実践的な前衛の役割を果たす。

新しい段階に入ったのである。

我々はつねに批判の精神を必要とする。批判は自己の（対象の分析だけでなく）自己の路線の問題でもある。我々は過去三年半の敗戦日本についても自己路線の問題として批判的態度をとりたい。批判は責任を意味するのである。政治の論理と、政府の指導者が、民主革命を…した…ことがある。

民主革命は、まさに先駆的な陸軍たるものがある。しかし私は如何に悪くも日本社会の実情に…多くの不満を覚ゆる。…私の衣裳である。私は常識的に民主…のことを考へてゐるわけでない。馬士にも衣裳ということがあって、それは馬士の努力を促すものとして大にいいことだが、…の頭をつけるようなことは不可能であろう。日本は実にかけてアジア的停滞へ転落しつつある。この実情に即して我々は来りつつある実践的民主革命の課題は何であるかを考へてみる。…とするのか。

二、アジア的社会へ転落の危機

一八六八年の明治革命以来わが日本は西欧及びアメリカから多くを学び、社会構造に於ても精神生活に於ても多少とも近代的なものを身につけた。それが粗末なものであったことは人の知る通りである。民主革命は日本を根本から近代化させようとする意図をもつものだが、しかし（敗戦の打撃に日本は…七十年…を喪失して）現在の実情は近代化まで…。アジア的社会へ転落する危険がある。「アジア的」という言葉は（西欧の用語では）未開とか、停滞性とか、専制的という意味をもつ侮辱であるか、我々はそれを東洋の伝統に共通する退歩性の意味に使用する。

二、

(1)日本は敗戦によって領土の四六%を失った。朝鮮が植民地でなくなったことは我々日本が脱皮するところがっ

しかしこんどは逆に半植民地状態になりかけている。東洋の諸民族が一二世紀のあいだおかれていた宿命を、いまは日本が追われてやっと

免れてきたのであったが

(2)近代文明のきり札は機械文明と技術である。日本の工業生産設備は戦前の六〇%にすぎないし、設備も機械も老朽化してその能率

は低くなっている。日本の自力でどんなに頑張っても生産の回復は戦前の六割位がやっとである。技術の方面でも遅れがあり、日本の技術者は

最新の機械をもたず、使用されない技術は荒廃し、遅れ、外国の特許をとるのであって、日本の技術者は外国の技術の翻訳に夢中に

なったり、やる職人になりさがり、近代化の物質的ぎりぎりの状態に置かれている。十九世紀から十九世紀にかけてのドイツは西欧において遅れて

いて、その代りカントやヘーゲルのような大思想家が出ることによって精神的勝利をほこったというのがドイツ人の誇りである。我々はカントやヘーゲルも欲しいが、物質文明の一層

(3)人口の過密が毎月十万人を超えるから八千万人になるのはもうすぐである。低い生活水準の都市や農村に溢れて食物を求める無数の

人口、こうした中国やインドでみられるアジア的光景が現れぬとも限らない。

(4)一九三五年に農業人口は四二%であったが一九四六年には五二%になった。先進国のうち農業国は一九三五年に一八%

なつたのが一九四七年には三二％となつた。かように農業の比重が重くなつてゆくことは、農業生産力が増大して農村が繁栄していることをいみしない。

これは近代工業の低落を意味するだけの話である。

の一九四七年の統計によると失業者は僅か八百名で、そのうち潜在失業者が五百二十二万であつた。この潜在失業者は農村、友人、家族に寄食して、彼等の生活水準を引下げ、全体として国民経済的負担を生み出す。又はやみ屋になつて流通秩序を乱し国民の皮を剥ぐ。マルクスは産業予備軍のなかに潜在失業者を数えているが、それは資本主義化した社会の話しで、この日本では封建的な家族制度の生活慣習によって彼等は生れ出る悲劇のままなのだ。そのいみで潜在失業の恒常的存在はまさにアジア的社会の特徴であり、それが増大しつつあるのである。

(6)自営業、工業、農業における中小零細経営は依然たるものであるばかりでなく、その経営はひどくなりつつある。昭和二十二年の農林省統計によると、耕地農地のうち十八万町が既に開墾されたが、それを買つた小作農は八十何万人、一人当り平均に一反である。しかしこれ、開墾農地はすでに百四十町に達しておらず、小作料はもっと買うであろうが、上地数字はいかに零細地面が分配されているかの例で

ある。今の寺では所有と経営の零細性と分散性をもっている。佛作つて読み取れない。零細所有、零細耕作、日本中世来の

アジア的遺制である。

（四）一九四七年の労働年齢人口の就業統計をみると「無報酬労働」という奇妙なカテゴリーがある。十五才—六〇才の労働人口中の全就業者約二千八百十万人のうち、千百三十万人が無報酬で労働しているというのである。これは家族制度のために働いているか、潜在失業者の増大を意味する。生産者が封建的に労働し、その労働量に応じて報酬をうける資本主義社会の事柄と遠い。

その隣りの息子を呼んでできうるだけ慰め、夫の殺された女房の代りに自分の家の若い女婢を嫁にやったので、やうやく事件か沙汰すみとなった。崔の母は憤り泣いて食事をとらない。崔は懼れて母のまへに跪き、どうぞ自分を笞でうって下さいと願ひ、且つ後悔いたしましたといふのであるけれども、母は泣いて顧みない。崔の妻の周氏も崔と並んで跪いて宥しを乞ふた。そこで母は周氏に免じて笞で崔を懲らしたのち、針を以てその臂に十字の紋をいれずみして、朱でそれを塗り、それを消してならぬと云った。崔はかしこまって笞もいれずみもうけた。それで母はやっと食事をとった。

母は信心深くて、喜んで僧侶や道士に飯をふるまってなかに食べさせた。あるとき一道士が門のそばにいたが崔の通りすぎるのをみていふよう

「若旦那にはどうも艱難の相があります。恐らく終りを全うなさるのはむつかしいでせう。お宅のやうな積善の家にそんなことがあつてはなりますまい」

崔はこの頃新たに母の戒めをうけたばかりだつたので、この言葉をきいて道士に敬禮して

「わたし自身もそう思ふのですが、たゞ不義不正をみると、どうしても自分を抑へることができないのです。努力して改めるならば艱難とやらを免れることができますか」

道士は笑つていつた。

「免れることができるかどうかをおたづねになるまへに、先づ自分でよく改めることができるかどうかを、自分に問ひ向けになるがよろしい。たゞし第一の場合をかんがへてあなたに

清朝の短篇小説

一、

日本の敗北は西洋文化の東洋文化にたいする精神文化の新しい敗北といふ意味もある。物質文化が西洋に勝つてゐるのは肉眼に映ずる事実で、ごまかしようもない。私のいふのは東洋人の精神文化のことだ。いつでも人に新鮮な生命の息吹きを感じさせるギリシア文化、ローマの男性的な文化、東洋の深い思索的であると共に前にも深い思索的であつたギリシア

教育化、それらの民衆に培はれた近代西欧自由化、ルネサンス、宗教改革、科学の自覚、フランス革命、産業革命、カント、ヘーゲル、マルクス等。ー然しそれは西洋文化を明治の日本人に心の趣向で新しく学び西洋はならなかった。しかしそれは何も西洋無条件の受入れでしかなかったことをいみしない。文化は然しその内部から ー 等の精神的表現だ。

日本は戦争に完全に敗けた。この敗戦は東洋の物質文化が西洋物質文化に敗けたのである。精神的敗北といふことでなく、物質的敗北といふことの意味である。物質的文化で敗けたのは誰の目にも明らかであるが、精神の敗北をしている。負けたのが敗北といふのは精神文化ではないのだ。

四 米ソ関係 ——

○ 日本の再建 ——

○ 日本の[illegible]保障 ——

○ 労働組合の[illegible] ——

○ 外資導入問題 ——

○ 民族[illegible]の ——

○ 東洋と社会主義 ——

常[illegible]ニオイテ[illegible]

六 米ソ関係

(1) 米ノ対日政策ノ変化

(2) アメリカ内[illegible]

(3) ソ連内情

(4) 米ソ衝突[illegible]

(5) 日本人ノ立場

(6) 外国[illegible]関係

(7) 戦争問題

六、日本の国際的地位
(1) 国際情勢
(2) アメリカとの関係
(3) ソ連との関係
(4) 中国との関係（中共…）

早稻田大學圖書館

早稲田大學圖書館

八 水田印行